

令和8年度学校だより

学校教育目標

自主 責任 明朗



キャッチフレーズ

夢・自信・誇り

# 六中だより 6月号

〒352-0023 埼玉県新座市堀ノ内3-1 1-1

TEL 048-478-2764 FAX 048-482-0136

HP <https://j-dairoku-c-niiza.edumap.jp>

開校47年目

→  
第  
六  
中  
H  
P  
→



～「夢・自信・誇り」を育む学校を目指して～  
「本当の自分」

校長 中島 豊

体育祭が大成功のうちに終了しました。今年度の体育祭のスローガンは「Break the Limits!」です。練習の時から、「第六中の体育祭の新たな歴史をつくろう!」という意気込みで取り組み、それを実現できたと思います。

さて、話が変わりますが、私は若いころ「『自分』とは、何か」ということをよく考えていました。もう、だいぶ前のことになりますが、あるアスリートが「自分探しの旅に出たい」といって現役を引退したり、さらに昔のことですが、ヒット曲に「素晴らしい自分を探す」という歌詞があったりしたことを今でも覚えています。しかし、「自分探し」という言葉だけ抜き出すと、「『本当の自分』というものがどこかにあって、それが見つかるまでの今の自分は本当の自分ではない」という、ちょっと言い訳がましいニュアンスを感じていて（個人の感想です）違和感を覚えていました（念のためにおきますが、先に挙げたアスリートやアーティストを私は大好きです）。

では、「自分」とはどのようなものかという、今では「これまでの人生の結果」だと私は考えています。もちろん、その中には先天的な要素があるのは間違いありませんし、家庭環境や生まれ育った地域などの外的な影響も大きいでしょう。しかし、自我が芽生え、これから大人になろうという中学生たちには、「自

分は自分でつくってほしい」と思っています。3年生は数か月後には進路選択という人生の大きな節目を迎えますが、そのように大きなものでなくても、例えば「テストに向けて少し勉強をするのか、テレビを見てしまうのか」とか、「夜遅いので明日に備えて布団に入るのか、もうちょっとだけスマホをいじるのか」とか、そのようなことが少しずつ自分を作るのだと思っています。人は常に「選択、決定」を行っていて、その積み重ねが自分をつくっていることに、生徒たちには自覚的になってほしいと思っています。

そして、先日行われた素晴らしい体育祭。これは、練習の時から一人一人の行動の選択の成果だと思います。今年の体育祭は、練習の時から素晴らしかったのです。初日から時間前に整列することができていましたし、気合を入れる声や応援の声など、元気な声が飛び交っていました。そこには、違う選択肢もあつたはずですが、しかし、六中生全員の前向きな選択の結果が体育祭を大成功としたのです。そして、その過程の中で、六中生の一人一人が、そして、集団が大きく成長できたのだと思います。

是非、この成果に「自信」を深め、六中生であることに「誇り」を持ってほしいと思います。

